

山行名	武甲山忘年山行 [埼玉県/1,304m]							
実施日	2013年12月21日[土]~22日[日] 1泊2日 公共交通機関利用							
天候/ 参加人員	天候:12/21:晴れ時々曇り、12/22:晴れ レベル:★★ 参加者:申込27名/実施25名(男性13名/女性12名)							
パーティスタッフ	CL/計画/:、SL/:、会計/:、救護:松見、写真: / / 忘年会および2次会の強力な助っ人: スタッフ名削除							
参加メンバ	A班:、B班:、 C班:、D班:、(以上、武甲山縦走メンバ19名) E班:(車で現地の宿直行メンバ2名) 参加者氏名削除 F班:(車で参加、武甲山山頂までピストン後、現地の宿直行メンバ4名)							
費用 一人当たり: ¥9,600 (往路/復路 交通費含まず) TTCカンパ金: ¥2,445	《内訳》 ●往路公共交通費[本厚木駅-横瀬駅 @1,420]、復路公共交通費[西武秩父駅-本厚木駅 @1,450]、 ●タクシー代[横瀬駅~登山口(4台分)]:¥9,230 ●宿泊費:@9,000、●忘年会飲み物代:¥14,300、●忘年会景品代:¥9,750、●2次会飲物、つまみ代:¥8,275、 ●通信費:¥1,000 支出合計:¥267,555 《集金》@9,600*25名=¥240,000、《TTCからの補助金》¥30,000 収入合計:¥270,000 【TTCカンパ金】¥270,000-¥267,555=¥2,445							
歩行/行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間	行動時間比(実行/計画) 110% 歩行時間比(実行/計画) 113% 歩行時間比(実行/ガイドブック) 126%				
	ガイドブック	4:10	-					
	計画	4:40	1:25	6:05				
	実行	5:15	1:25	6:40				
実行コースタイム記録								
小田急線	横浜線	JR 八高線	西部秩父線 (タク)	(体操) 0:17	0:26	0:42	0:15	
本厚木駅	====町田駅	====八王子駅	====東飯能駅	====横瀬駅	====生川	一の鳥居	====登山口(15丁目)	====小休止
7:04	7:19-31	7:56-8:01	8:45-54	9:41-50	10:00-20	10:37-42	11:08-18	12:00-05
(昼食)	1:00	0:05	0:05	0:50	0:50	0:45	(送迎バス)	
====大杉の広場	====神社	====武甲山山頂	====神社	====小休止	====丸太橋(橋立川出合)	====橋立鍾乳洞	====浦山山荘	
12:20-45	13:45-50	13:55-14:10	14:15-20	15:10-20	16:10-15	17:00	17:15	
コースの概要、特記事項、反省事項等								
<p>実施日3日前から2日前にかけて日本列島を今冬の寒波が襲い、関東地方の山間部にも結構な雪をもたらした。2日前の夕刻に現地に確認を入れたところ、「1000m付近で20cm程度、山頂付近はそれ以上の積雪」との情報があった。色々な所に確認を入れたことから、前日には秩父市役所、警察(地域課)、タクシー会社、宿泊先のそれぞれから連絡が入り、異口同音に「山は真っ白だけど、大丈夫ですか?」というようなことを確認された。よほど自信なさげに質問したためなのか分からないが、思わず苦笑してしまった。「私達は地域山岳会のメンバーで、この程度の雪は経験もあって十分に想定内であり、アイゼンを携行して登りますので大丈夫です」と丁寧にキッパリとお応えしておいた。当日の朝は快晴で、この上ない山行日より恵まれた。参加者25名の内、車1台2名は宿に直行、また車1台4名は武甲山山頂までピストン後宿に直行することになっており、19名が本厚木駅、町田駅、八王子駅、東飯能駅と落合いながら、計画通りに横瀬駅に到着した。改札を出ると予約しておいたタクシー4台が既に待機しており、トイレ休憩後直ぐに出発した。計画では生川一の鳥居までタクシーで入る予定であったが、スタッドレスタイヤを装着していても路面凍結でこれ以上は進めないという所で下車を余儀なくされた。アイゼン装着には早過ぎる感もあったが、以前に凍結路で滑って転んだ際に手首を骨折した事例もあったことから、ここでアイゼン装着の指示を出し、ストレッチで身体をほぐしてから、計画より少し遅れて出発となった。</p> <p>武甲山山行 このところ、歩く速度が早過ぎるといろいろところで非難を浴びてさすがに心に響いたので、今回は雪道であることもあり、「ゆっくり歩く」ことをテーマにして歩を進めた。このコースはアップダウンがほとんどなく、なだらかな登りが続いており、登山口(15丁目)を経て大杉の広場までほぼ順調で、ここで昼食とした。計画に対し10分遅れであり問題となるレベルではないが、計画段階で日の入16:33に対し、下山後の橋立鍾乳洞での送迎バスピックアップを16:35とギリギリに計画しており、これ以上遅れると日暮れ道を歩かなければならなくなることから、多少焦る気持ちはあった。これまでの自分であればここでギアチェンジして恐らく徐々に速度を早めたに違いない。しかしながら、下山口の先にある丸太橋から橋立堂まではなだらかな林道となっていて50分ほどかかることが分かっており、丸太橋まで日暮れ前に降りることができれば、ヘッドランプを点けて歩くことになっても大きな問題はないはずと、「ゆっくり歩く」ことをもう一度心に言い聞かせた。昼食は十分に時間を確</p>								

保して撮ることができない可能性があることを事前に伝えてあり、実際に短めとした。雪道で冷えたのか、ここで脚に“こむら返り”を発症するメンバが表われ、ややロスタイムとなるものの、荷物を分散して負担を軽減するという措置を取って対応した。大杉の広場辺りから雪の深さが増してきて、山頂までの間で30cm以上の積雪となっていた。特別な急登もなく順調に歩を進めて1時間ほどで、山頂手前にある神社に到着すると、マイカーで来て先行していたF班メンバと合流することができた。既に山頂には行って来たようで、暫く談笑後お別れをして、5分ほど先にある山頂を目指す。相変わらず天気は最高で、山頂からは遠くの山並みや下界の街を見下ろすことができた。お決まりの集合写真を撮って、浦山口に向かって下山となる。この時点で、計画に対し20分遅れであったが、そんなに焦る気持ちもなく、もう腹は座っていた。下山路は雪がより深くなり、50cmあるいはもう少しあったかもしれない。倒木の間を縫って歩かなければならないところが随所に表われ、斜度も結構きつくなってきて、脚への負担が増す。登り以上に歩行速度に気を使いながら休憩をこま目に取り下山口を目指す。下山口では計画に対し30分以上の遅れとなり、送迎バスをお願いしている宿への連絡を試みるも携帯電話の電波が届かない。丸太橋より先はなだらかな林道となることから、ここでYOさんを指名してCLと二人で、橋立鍾乳洞で待機しているバスに連絡するため先行することにした。運転手さんに丁寧にお願いしたが、幸い優しい方で「気にしないでいいよ」との言葉でホッとした。メンバ全員が橋立堂に到着したのが17:00丁度で日没から25分以上経過しており、バスに乗り込むと直ぐに周りは真っ暗になった…というような絶妙のタイミングであった。15分ほどで宿に到着するのであるが、あたたかい温泉とあたたかい料理が待っていることを思うと、冷え切った身体には本当に待ち遠しい時間であった。

忘年会&2次会 浦山山荘に到着すると、事前の電話連絡で何度もお話をした女将さんが笑顔で出迎えてくれた。いろいろな相談ごとやお願いごとを受け入れていただいて、品の良い優しい姿を思い浮かべていたが、イメージ通りの素敵な方であった。忘年会のこと、2次会のこと、翌朝のミーティングのこと、駅までの送迎のことなどを確認すると、ことごとくこちらの思い以上の答えが返ってきて、その心づくしに感謝の気持ちで一杯であった。岩風呂でゆっくり温まった後、夕食までまだ30分以上の時間がある。男性陣は持ち込んだ酒やつまみを出してきて、忘年会前の0次会が早速始まった。25名の団体であったためであろうか(当初は予測で30~35名で申し込んだ)、料金は割引いて戴いたのに宴会コースに格上げされた素晴らしい料理が目の前に並んでおり、MC(司会進行)をお願いしたKoTさんのリードで盛大に忘年会がスタートする。KITさんの長年に亘るTTC-HP運用管理に対する感謝状および記念品の贈呈、また、ETさんの百名山完登のお祝いのセレモニーを経て、KoTさんのハーモニカ演奏、OKさんのフルート演奏&HMさんのキーボード伴奏で会は益々盛り上がっていく。ここで今回、MCのKoTさんの指名で実現した強力な宴会助っ人のHMさんのリードでゲームが3つ実施され、忘年会は近年まれに見るほどの大盛況となった。このままエンドレスで続くのではないかとと思われるほどであったが、宿サイドの都合もあり、適切な時間で一旦お開きとなり、ここからは部屋に戻って2次会である。2次会には恐らく全員が参加されたのではないと思われる、これも最近ではなかったことのように思う。持ち込んだお酒の品評会よろしく賑やかに語り合うグループ、TTCの将来を熱く語るグループ、ハーモニカの伴奏で楽しく唄うグループ、来年度の山行に思いを馳せ行先やリーダーを早々に決めるグループ等々に自然に分かれ、夜が更けるのも忘れていつまでも語らいが続いた。

二日目 前日のお酒が残っていて二日酔いのメンバもいたようであるが、手抜きのない豪華な朝食を目の前にして思わず箸が進んで、「朝から食べ過ぎてしまった」と言う方が沢山おられた。それでも12月度例会が始まる8:30頃になると落ち着きを取り戻し、肅々と例会を実施することができた。浦山山荘よりお土産として各人に手造りのお菓子(飴)を頂き、玄関先で女将さんにも入っていただいて集合写真を撮影し、ここで今回の忘年山行は解散とした。有難いことに西武秩父駅および秩父鉄道秩父駅までバスで送ってくれるという、どこまでもサービス尽くしの宿であった。

秩父神社および秩父まつり会館 解散後の行動となるが、メンバ12名およびKIT車で参加した4名、合計16名が『秩父神社および秩父まつり会館』に帰路の途中で立ち寄ったので、このことについて簡単に触れておく。『秩父神社は、秩父市の中央にある杵之杜(ははそのもり)に鎮まる総社。徳川家康の寄進による権現造り様式社殿は、埼玉県の重要文化財に指定されており、極彩色の彫刻が施され、名工左甚五郎作「つなぎの龍」と「子宝子育ての虎」は特に有名』この「子宝子育ての虎」の下に掲げてあった言葉“親の心得”がとても印象的であったので、右記しておく。



『秩父まつり会館は、毎年12月3日に行われる日本三大曳祭の一つ「秩父夜祭」を資料や実演で紹介する展示館。秩父祭囃子の音楽が流れる中、最新の技術を駆使した光と音の演出により、秩父夜祭を再現しており、昭和の名工による豪華な屋台、笠鉦、幕、彫刻など、歴史ある貴重な資料を間近で見ることができる』という内容で、一見の価値があった。入館料は通常400円であるが、ここでも浦山山荘より連絡が入っていて、会館からの申し出により350円に割引いて戴くことができた。

最後に、山荘出発の際に玄関先で撮影した集合写真を同封して浦山山荘にお礼の手紙を送付しておいたことを申し添えると共に、皆さまのご協力に対し、心より感謝申し上げます。